

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	教授
氏名	渡邊 浩司		
NAME	WATANABE Koji		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) 13世紀後半の古フランス語韻文「アーサー王物語」の研究

(英文) Recherches sur les romans arthuriens en vers de la seconde moitié du 13^e siècle

2. 研究期間

2023度～2024年度

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文600字程度、英文50word程度）

(和文)

本研究は、13世紀のフランス語圏で書かれた「韻文」による「アーサー王物語」のうち、これまで「聖杯物語群」に代表される「散文」主要作品群との対比で否定的な評価を下されてきた作品群に焦点を当て、その再評価に努めた。具体的には、若き主人公の誕生・幼少年期から騎士としての武勇譚と結婚に至るまでを描く「伝記物語」に属し、欧米でも先行研究が極端に少ない『フロリヤンとフロレット』と『クラリスとラリス』に注目した。

2年間の研究期間のうち、夏季休暇の時期にはパリのフランス国立図書館へ資料収集に出かけ、日本では入手困難な文献を参照した。その一方で、研究対象とした2作品の校訂本を刊行したリシャール・トラクスラー氏とコリンヌ・ピエールヴィル氏からは、定期的に貴重な情報を提供していただいた。さらに2023年10月に開催された第43回日本ケルト学会研究大会では、このテーマで研究発表を行う機会があった。

1270年頃の作とされる『フロリヤンとフロレット』と『クラリスとラリス』が先行作品群の単なる模倣や二番煎じではなく、13世紀半ばまでに主要なジャンルとして確立していた「アーサー王物語」の革新を狙った作品であることを明らかにするため、本研究では「アーサー王物語」の草創期から主役級の人物である騎士ゴーヴァン（英語名ガウェイン）の扱われ方を取り上げた。

中央大学『仏語仏文学研究』第56号（2024年2月）と第57号（2025年2月）所収の拙稿で明らかにしたように、「韻文」が優勢の「アーサー王物語」の第1世代（1160～1200年）で騎士の鑑として描かれたゴーヴァンは、「散文」が優勢となる第2世代（1200～1230年）になると悪役として否定的に扱われるようになる。そのため、1230年以降に執筆を行った第3世代の作者たちにはさまざまな選択肢が残されたが、『フロリヤンとフロレット』と『クラリスとラリス』の逸名作者はあえて「韻文」形式を採用し、ゴーヴァンの名誉回復に努めており、この文学ジャンルを刷新しようとする意気込みを感じさせる。

(英文)

Il s'agit d'une tentative de revaloriser les romans arthuriens en vers rédigés après 1230, longtemps considérés comme des textes dénués d'intérêt et d'imagination. L'analyse de *Floriant et Florete* ainsi que *Claris et Laris*, deux romans anonymes rédigés autour de 1270, est particulièrement prometteuse, permettant entre autres de mettre en lumière la réutilisation originale de divers motifs et actions des sources arthuriennes. Notons la réhabilitation du personnage de Gauvain, dont les romans arthuriens en prose du XIII^e siècle dressaient un portrait peu flatteur. Elle est le fruit d'un renouvellement du genre dans ces deux romans tardifs.